

研究紀要

【研究主題】

世界のどこでも 誰とでも 主体的に共によりよく生き抜く力を育む基盤となる道徳性の育成



令和元年 11 月 6 日(水)

磐田市立豊岡南小学校
磐田市立豊岡北小学校
磐田市立豊岡中学校

はじめに

子供たちが生きる未来の社会は、変化が激しく且つ複雑で予測困難な厳しい時代を迎えていることでしょう。併せて、情報化やグローバル化、IoTやAI等の進化は、私たちの社会や生活を大きく変えていくであろうことが予想されています。そのような社会において、子供たちに必要となるのは、いかに社会が変化しようとも、自分で課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断・行動し、よりよく問題を解決する資質や能力です。また、自らを律しつつ、他者と共に協調し、他者を思いやる心や感動する心など豊かな人間性及びたくましく生きていくための健康や体力とされています。今日の道德教育では、前述したような社会の変化にも柔軟に対応し、社会の形成者として生きていくことができる人間を育成する上で重要な役割を担っています。

静岡県では、学校・家庭・地域社会が社会総がかり・地域総ぐるみで「有徳の人」づくりを推進しています。磐田市でも、「ふるさとを愛し、未来をひらく、心豊かな磐田市民」の下、道德教育及び暴力行為やいじめをしない優しさを育む教育などを施策として取り組んでいます。

豊岡地区においては、過去2回の道德教育の指定研究を受けており、今回で3回目となります。豊岡地区は、市町村合併以前からモラロジー教育や保こ幼小中12年間を見通した一貫教育等、昭和の時代から継続して取り組んできています。また、平成25年度より、市内ではいち早く保護者・地域の方による学校運営参画（コミュニティスクール）推進に向けた教育活動にも取り組んできた地域です。

さて、私たちとよおか学府（豊岡南小学校・豊岡北小学校・豊岡中学校）では、平成30年度・令和元年度の2年間にわたって、文部科学省の「道德教育の抜本的改善・充実に係る支援事業」及び「静岡県教育委員会の静岡県道德教育推進事業」の研究指定を受け、これからの道德教育の在り方について研究を進めてまいりました。

研究を進めていくと、児童・生徒が物事を自分事としてとらえる姿や多面的・多角的に思考し、自分の生き方を見つめていく姿が道德の授業以外にも見られるようになってきました。日常生活においても挨拶や思いやりを大切にしようとする姿、学校の一員としてよりよい生活になるよう仲間と委員会活動等を頑張っていこうとする姿が少しずつ見られるようになっていきます。さらに、家庭や地域社会とも連携した取組を通して、周りの温かな支援を改めて実感する機会ともなっています。今後も、地域や保護者との連携を強め、保こ幼小中の12年間を見通した教育に邁進していきたいと思えます。

この度、2年間にわたる「研究の成果」と「今後も研究を続けたいこと」を研究紀要にまとめるとともに、児童・生徒の学びの様子を皆様に見ていただくことといたしました。つたない研究ではありますが、参観されます皆様の学校における道德教育推進の一助となれば幸甚です。

最後になりましたが、御指導・御助言をいただきました京都産業大学教授 柴原弘志先生、静岡県教育委員会義務教育課様、静西教育事務所地域支援課様ならびに磐田市教育委員会学校教育課様をはじめ、保護者・地域の皆様に心より感謝申し上げます。

磐田市とよおか学府長(磐田市立豊岡中学校長) 鈴木 英司

研究紀要 目次

1	研究の概要	
(1)	研究主題	3
(2)	主題設定の理由	3
(3)	研究の目的	3
(4)	研究内容	3
	とよおか学府グランドデザイン	4
(5)	研究方法	3, 5
(6)	各研究部の研究内容	5
(7)	研究組織	5
(8)	道徳教育全体計画	6, 7
2	カリキュラム研究部の研究実践	
(1)	子供のよさの伸長を図る道徳教育の内容の重点化	8
(2)	道徳教育全体計画をはじめとするカリキュラムの作成	8, 9
(3)	道徳教育への意識を高めるカリキュラムの活用	10, 11
(4)	保こ幼及び小中12年間を見通したカリキュラムの作成	12
(5)	カリキュラム研究部の成果	13
(6)	今後も研究を続けたいこと	13
3	授業研究部の研究実践	
(1)	観の明確化	14, 15
(2)	発問の工夫	16~19
(3)	板書の工夫	20~22
(4)	見取りと評価	23~27
(5)	授業研究部の成果	28
(6)	今後も研究を続けたいこと	28, 29
4	連携推進研究部の研究実践	
(1)	家庭連携の実践	30, 31
(2)	地域連携の実践	32
(3)	保育園、こども園、幼稚園（保こ幼）小中連携の実践	33, 34
(4)	連携推進部の成果	34
(5)	今後も研究を続けたいこと	34
資料1	令和元年度 磐田市立豊岡南小学校道徳教育全体計画	35
資料2	令和元年度 磐田市立豊岡北小学校道徳教育全体計画	36
資料3	令和元年度 磐田市立豊岡中学校道徳教育全体計画	37
資料4	令和元年度 とよおか学府重要内容項目別表（豊岡南小学校・豊岡中学校）	38
資料5	令和元年度 とよおか学府重要内容項目別表（豊岡北小学校・豊岡中学校）	39
	研究同人	41

1 研究の概要

(1) 研究主題

世界のどこでも 誰とでも 主体的に共によりよく生き抜く力を育む基盤となる道德性の育成

(2) 主題設定の理由

とよおか学府（豊岡中学校区）の子供は、全体的に明るく素直で優しさがああり、各学校においては、安定した教育活動を行ってきている。また、家庭・地域とのつながりも強く、連携して子供の成長を支援している。平成 24 年度からは、社会情勢や未来への展望、子供の実態、保護者・地域の方の願い、磐田市の教育目標等に鑑みて、「世界のどこでも、誰とでも、違いを超えて、共に生きようとする態度と能力の育成」を目標としたグローバルコミュニケーション科（GC科）を創設、特別の教育課程による研究実践に取り組んできた。同時に、主体性や違いを超えて共に生きていくための共生の能力や態度を醸成するため、より良い人間関係を築く学びや英語の学習、言語の活用力を高める学びを中心とした保こ幼小中一貫教育「とよおかつ子育成プロジェクト」に取り組んできた。

平成 29 年 3 月に告示された学習指導要領では、情報化やグローバル化といった社会の変化が人間の予測を超えて進展する時代にあつて、予測できない変化に主体的に向き合い、感性を豊かに働かせながら自らの可能性を發揮し、よりよい未来の創り手となるために必要な資質能力を育むことを求めている。

そこで、とよおか学府の教育をより充実・発展させるために、世界のどこでも、誰とでも 主体的に共によりよく生き抜く力を育む基盤となる道德性の涵養を目指した教育の充実を図ることが重要であると考え、豊岡南小学校、豊岡北小学校、豊岡中学校の 3 校が協働して道德教育の研究を推進することとした。（P 4 「とよおか学府ランドデザイン」参照）

(3) 研究の目的

とよおか学府が目指す「世界のどこでも 誰とでも 主体的に共によりよく生き抜く力」を培う基盤となる道德性を育んでいきたい。

そのために、とよおか学府がこれまで推進してきた「保こ幼小中一貫教育」と「コミュニティスクール」による「とよおかつ子育成プロジェクト」の成果を生かしつつ、各発達段階における指導の重点を明確にした系統的な「特別の教科 道德（以下道德科という）の授業実践」（縦の接続）及び、家庭や地域の理解・協力に基づいた「学校生活全般における道德教育」（横の連携）を意識した小中連携カリキュラムを作成・活用し、道德教育の研究推進を図ることとする。

(4) 研究内容

ア 発達の課題を踏まえた道德教育の内容の重点化と、道德科と各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動との関連的指導の工夫について研究する。

イ 子供が道德的な課題と主体的に向き合い、考え、議論する道德科の充実と評価のあり方について研究する。

ウ 学校・家庭・地域社会における連携体制の充実について研究する。

(5) 研究方法

ア 3校の校長（教頭）が「道徳教育研究推進委員会」を組織し、管理職によるリーダーシップのもと、研究の方向性を明確にし、組織的、計画的な研究を推進する。

- イ 3校の校長、教頭に、教務主任、研修主任、道徳教育推進教師を加えた「拡大道徳教育研究推進委員会」を組織し、ミドルリーダーの企画力、実践力を生かした研究を推進する。
- ウ 研究内容のア～ウについて、それぞれ「カリキュラム研究部」「授業研究部」「連携推進研究部」を組織して研究を推進する。カリキュラム研究部は道徳教育推進教師、授業研究部は研修主任、連携推進研究部は教務主任が中心になり、実践的な研究を推進するとともに、「学府合同研修会」において共通理解を図っていく。
- エ とよおか学府がこれまで推進してきた「保こ幼小中一貫教育」と「コミュニティスクール」による「とよおかっ子育成プロジェクト」の成果を生かし、発展させることができるよう、学校（園）・家庭・地域の連携を一層重視して研究を推進する。

(6) 各研究部の研究内容

ア カリキュラム研究部

- (ア) 発達の課題を踏まえた道徳教育の内容の重点化
- (イ) 道徳科と各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動との関連を意識した「道徳教育全体計画及び別葉」「年間指導計画」の作成・実践・見直し

イ 授業研究部

- (ア) 子供が道徳的な課題と主体的に向き合い、対話を通して自己を深く見つめる道徳科の充実
- (イ) 子供が道徳性の高まりを実感し、自己の生き方についての考えを深められる道徳科の評価のあり方の検討

ウ 連携推進研究部

- (ア) 学校・家庭・地域における道徳教育目標や目指す子供像の共有化
- (イ) 学校・家庭・地域との連携による道徳教育の充実

(7) 研究組織

研究組織

世界のどこでも 誰とでも 主体的に共によりよく生き抜く力を育む基盤となる道徳性の育成

道徳教育研究推進委員会
各校校長・(各校教頭)

拡大道徳教育研究推進委員会
各校校長・各校教頭・各校教務主任・各校研修主任・道徳教育推進教師

カリキュラム研究部会

- 担当校長 大根富木(豊岡南小)
- 担当教頭 川島 隆(豊岡北小)
- 道徳教育推進教師

授業研究部会

- 担当校長 鈴木英司(豊岡中)
- 担当教頭 兼子 美(豊岡南小)
- 各校研修主任

連携推進研究部会

- 担当校長 平野 篤(豊岡北小)
- 担当教頭 原田 修(豊岡中)
- 各校教務主任

とよおか学府合同研修会

教科部会	分掌部会	道徳部会		
	幼児教育部会	授業部会	カリキュラム部会	連携推進部会

広瀬保育園・豊岡こども園・豊岡南幼稚園

豊岡南小学校・豊岡北小学校

豊岡中学校

(8) 道徳教育全体計画



各教科	
国語	表現力と理解力を育成し、互いの立場や考えを尊重しながら言葉で伝え合う力を高める。思考力や想像力及び言語感覚を養う。
社会	地域社会の生活及び発展に尽くした先人の働きなどについての理解を図り、地域に対する誇りと愛情を育てる。自他の人格を尊重し、社会的義務や責任を重んじ、公正に判断しようとする態度や能力など公民的資質の基礎を養う。
算数数学	日常の事象について見通しをもち筋道を立てて考え、表現する能力を育てる。数理的に物事を考えたり処理したりすることを生活や学習に活用しようとする態度を育てる。
理科	栽培や飼育などの体験活動を通して自然を愛する心情を育てる。見通しをもって観察、実験を行い、問題解決の能力を育て、科学的な見方や考え方を養う。
生活	自然に親しみ、生命を大切にするなど自然との関わりに関心をもつ。自分の良さや可能性に気付くなど自分自身について考えさせる。生活上に必要な習慣を身に付け、自立への基礎を養う。
音楽	音楽を愛好し、美しいものや崇高なものを尊重する心を育てる。我が国の伝統や文化、自然や四季の美しさ、夢や希望をもって生きることの大切さを感じる心を育てる。
図工美術	つくりだす喜びを味わい、美しいものや崇高なものを尊重する。造形的な創造による豊かな情操を養う。
保健体育	粘り強くやり遂げる、ルールを守る、集団に参加し協力する態度を養う。生活習慣の大切さを知り、自分の生活を見直す態度を養う。
技術・家庭	望ましい生活習慣を身に付け、勤労の尊さや意義を理解する。進んで生活を工夫し創造しようとする態度を育てる。
英語	我が国及び外国の言語や文化に対する理解を深める。世界の中の日本人としての自覚をもち、国際的視野に立って、世界の平和と人類の発展に貢献する態度を養う。

特別活動	
中学校	学級運営委員会や諸活動を通して、自主性や道徳性を育てる。生徒会活動に道徳的な目標を設定し、協力性や社会性を育む。学校行事の意義を理解し、集団の一員としての役割を果たす態度を養う。
小学校	集団生活の中で他者と関わる力をつけ、自発的、自治的な活動を通して、よりよい人間関係の形成やよりよい生活づくりに参画する態度を養う。集団活動や体験的な活動を通して、集団の一員としての自覚を深め、学校生活の充実と発展に努めようとする態度を養う。

生活の指導(校内)	
中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・服装や身なりを正し、時間を守ることができるようにする。 ・授業開始、終了時の語先後礼の実践。 ・三旗掲揚、降納活動の実践。 ・教室内の整理整頓や無言清掃を実践し、清潔で安全な生活環境をつくる。
小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣を身に付け、礼儀正しい行動ができるようにする。 ・集団行動のきまりを守り、めあてに向かって、最後までやり抜くことができるようにする。 ・思いやりの心を大切にし、協力し合って積極的に行動できるようにする。 ・気持ちのよいあいさつを推進する。

その他の教育活動	
中学校	短学活、給食、清掃活動、部活動、教育相談、進路学習、読書の推進などの諸活動において、意図的に道徳的価値について考える場を設定することで、道徳性を養う。
小学校	短学活、給食、清掃活動、読書の推進などの諸活動において、道徳性を養うための体験の場を充実する。

総合的な学習の時間	
中学校	横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、主体的に判断して学習活動を進めたり、粘り強く考え解決しようとしたりする資質や能力、自己の目標を実現しようとしたり、他者と協調して生活しようとしたりする態度を育てる。
小学校	現代的な諸課題について探究的な見方・考え方を働かせた横断的・総合的な学習に取り組むことを通して、自己の生き方について考えを深める。

生活の指導(校外)	
中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・自分勝手な行動をとらずに節度ある生活をし、自己の役割や責任を果たそうとする。 ・インターネット上のルールや著作権など法やきまりを守れるようにする。 ・職場体験や奉仕作業などを通して地域とふれあい、感謝の気持ちをもてるようにする。
小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・学級や家庭のきまりを守り、安全な生活ができるようにする。 ・地域での活動を通して、最後まで協力し合って活動することができるようにする。 ・家族の一員として、明るく健全な家庭づくりに参加し、人格形成の基礎を培うことができるようにする。 ・家族や地域の方に、気持ちのよいあいさつができるようにする。

教育環境の整備	
中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒と教師、生徒相互の望ましい人間関係づくり ・道徳コーナーの設置 ・道徳の日の実施 ・心のアンケートの実施 ・あいさつ運動の推進
小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・児童と教師、児童相互の望ましい人間関係づくり ・道徳コーナーの設置 ・心のアンケートの実施 ・あいさつ運動の推進

家庭・地域	
○学校、家庭、地域三者の交流を密にして情報の共有化を図り、相互理解を深め、協力体制を整える。	
①家庭との連携	「親子道徳」の実践 PTA教育講演会の開催 道徳の授業公開 など
②地域との連携	地域人材の活用 CSD、CSCとの連携 など
③保こ幼と小中との連携	学府合同研修会の実施 夏休み学習チャレンジ講座 小中・小小・幼小交流 など